北京特色古跡ガイド

北京の幽静な古跡巡り

北京観光特集
第五弾

北京市文化観光局

Beijing Municipal Culture and Tourism Bureau

© 2019 Visit Beijing All Rights Reserved

次へ →

北京の特色古跡

簡単紹介

文字は歴史を記録する。建築もまた然り。北京は中国の六朝の都として、数千年間時代の変遷を見届け、時代の色が反映される古跡はたくさん保存されており、歴史を記録している。

北京であなたは、皇帝の足跡を辿り、三山五園で皇家の気迫と芸術を感じることもできるが、都会から離れ、北京の郊外で神秘で幽静な古跡を探すこともまた一興だ。

今回は、北京の幽静な古跡巡りをテーマに、あなたが旅の中で、北京の歴史の厚みと神秘さを実感できるように、北京の皇家と郊外の古跡にまつわる歴史と伝説を紹介する。

ポイント

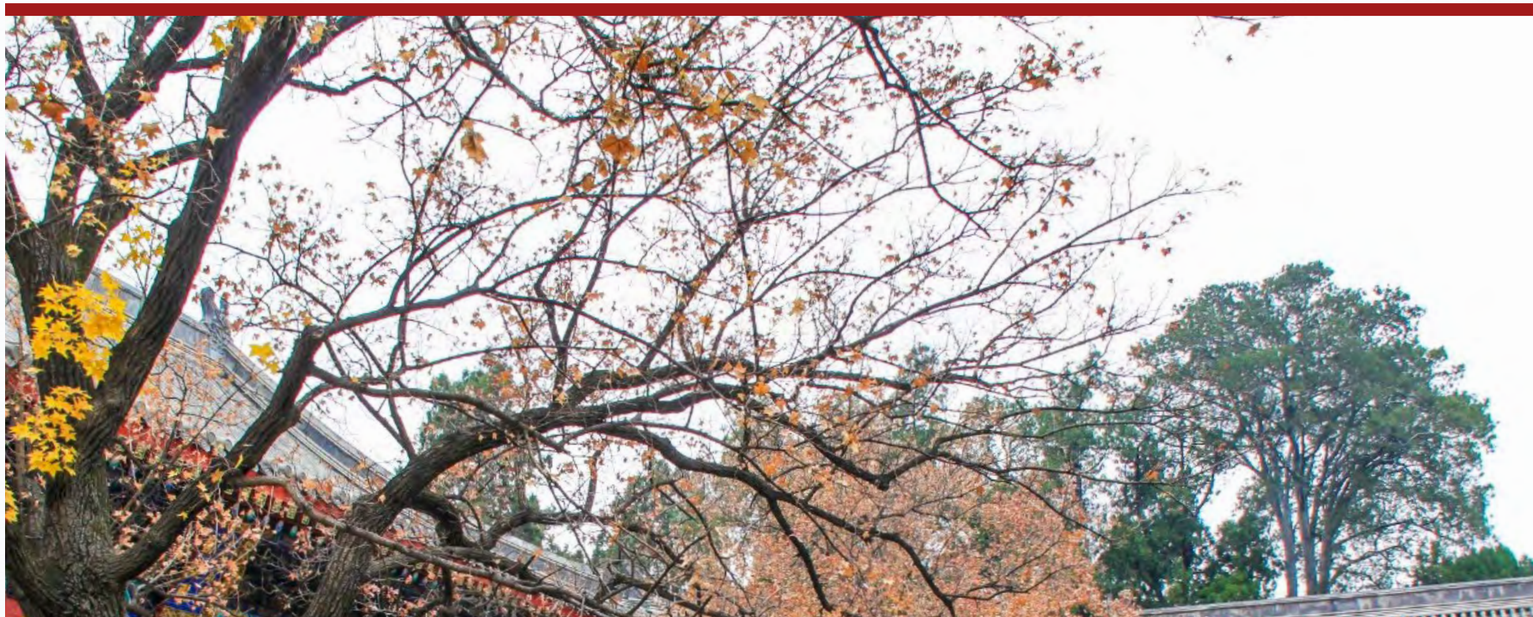
- 三山五園で皇家の足跡を辿る
- 北京郊外四区の古跡巡り

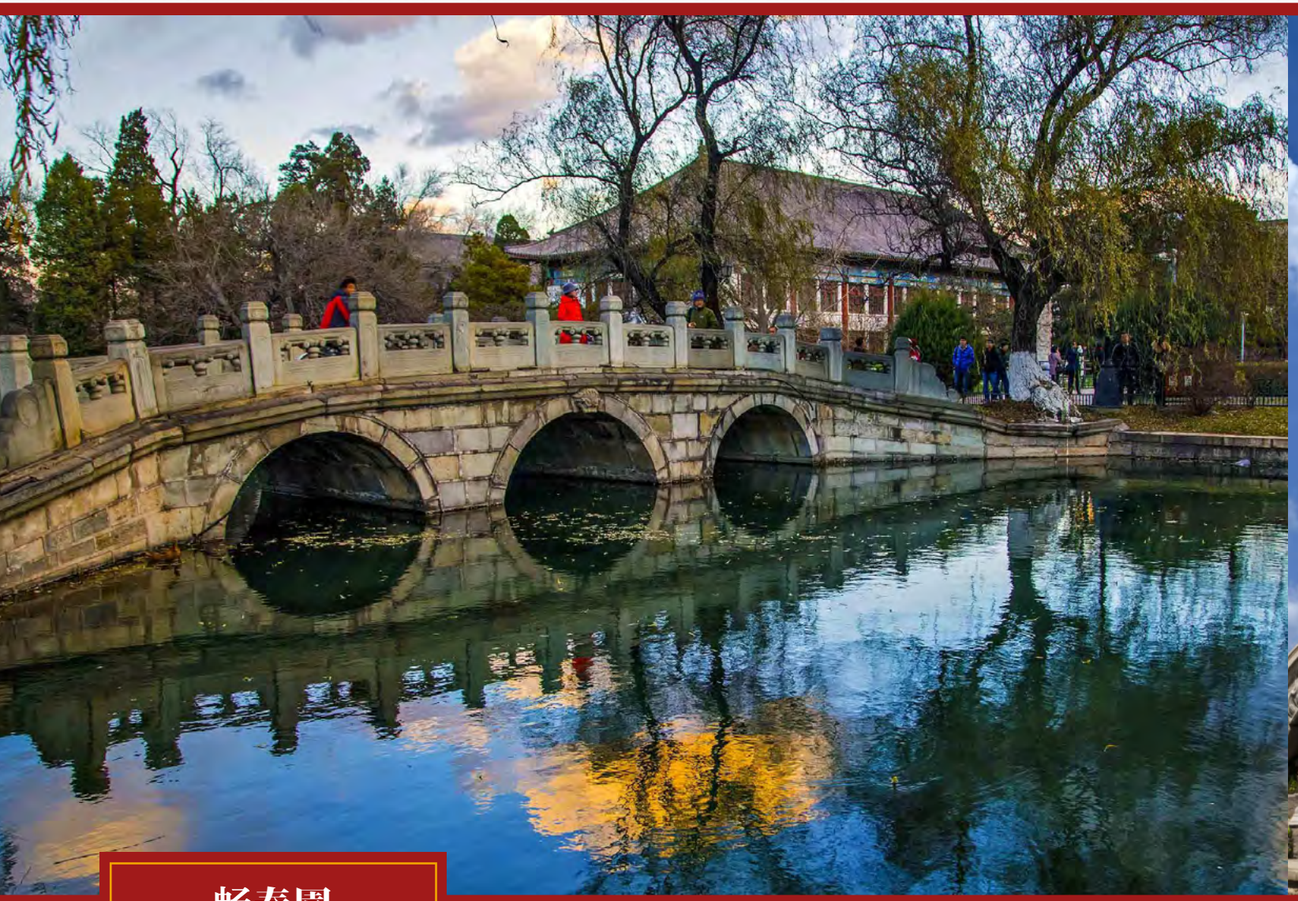
三山五園
皇家園林

簡単紹介

三山五園は北京西北郊外にある清朝の皇家園林である。「三山」とは、香山、万寿山、玉泉山であり、その上に建てられたのが「五園」と呼ばれる静宜園、清漪園(頤和園)、静明園, 畅春園和圓明園だ。

個々の園林は独自の歴史を持ち、造園手法も異なり、全体で見るとまるで歴史、文化の展覧会であり、各時代の皇帝の美の哲学と自然山水への追求が反映され、中国伝統の園林芸術の集大成である。



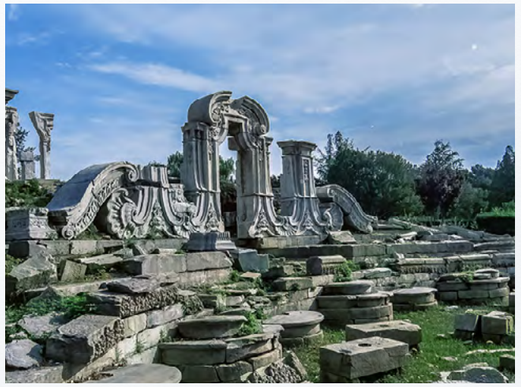


暢春園

暢春園の前身は明朝清華園で、康熙帝が南から帰還する際、江南の美景に心を奪われ、その美景の再現に力を入れ始め、江南の美景を皇宮近くで堪能できる夢を実現しようとした。のちに康熙帝は泉が豊富な清華園を選定し、その廃墟の上で江南山水の景色の再現に取り組んだ。暢春園は主に湖など、水による景色で構成され、園内は明朝の古木と古藤が残されており、幽静な環境となっている。

圓明園

圓明園は「万園の園」と呼ばれ、東方の夏宮と賛美されている。五代の皇帝により長き時間をかけて建設された圓明園は、まさに「この世の仙境」であり、偉大な宮殿から、農家の建築、江南の美景までそろえており、まさに東方の気品を表した園である。



万寿山清漪園

清漪園とは現在の頤和園であり、中国古典園林芸術の全盛期に建造され、現在世界で最も完全に保存された規模最大の皇家園林である。建造時は、他の四つの皇家園林はすでに完成されており、乾隆帝は母の誕生日を祝うため、清漪園を建設し、皇家園林全てを結びつき、独特の清朝皇家園林区を作り上げた。

香山静宜園

香山静宜園は西郊外の東坂に沿って建設され、迫力と美しさで北京の独特な風景として位置付けられ、のちに乾隆帝の手により、山林の自然を楽しめる大型園林と変えた。園内の建築は山に沿って建造され、排列は複雑だが、所々に池があり、園林で山と水を堪能することができる。

三山五園で皇家の足跡を辿る

玉泉山静明園

玉泉山は北京西山の支脈である。静明園の山の所々にたくさんの泉が湧き出す穴が存在し、中で最も大き穴は「玉泉」と呼ばれているが故、静明園は「玉泉山」の二つ名を持つようになった。静明園は清王朝が北京で建設した最初の行⊠(皇帝が外出する時に住む宮殿)であると同時に、「三山五園」皇家園林群建設の始まりの場所でもある。

北京郊外の古跡

紹介

北京は、偉大な清朝の皇家園林以外にも、郊外各地区にいろんな歴史的古跡がある。

三山五園の豪華さと比べ、郊外の古跡はより静かであり、その背後にはあまり人に知らされていない様々な伝説がある。歴史に興味を持ち、古都の変遷を知りたいあなたにとって、北京郊外の古跡はオススメだ。

北京郊外四区の古跡巡り

「北京城」の建都伝説を探る

潭柘寺

潭柘寺は、北京の西にあり、「先に潭柘寺、後に北京城」という言葉は、北京では広く知られている。潭柘寺は最初西晋時代に建造された北京最初の仏教の寺であり、数千年間の時代の変遷とともに、名前が変化し続けたいた。清朝時代に、寺の裏に龍潭があり、山の上には柏树（カカツガユ）がある故、民間は寺を潭柘寺と名付けた。その後明成祖は、潭柘寺をモデルとして、北京城を建設した。

定都閣

定都閣は門頭溝区の定都峰の上にあり、長安街東段の通州大運河と共に、「東に大運河、西に定都閣」という絶景を作り上げている。言い伝えによれば、朱元璋が天下を統一した後、朱棣に北平（北京）の守りを命じた。ある朝、朱棣とその参謀が山頂にたち、そこから北京城の位置を見定めた。それ故、その山を定都峰と名付け、定都閣を建設した。

北京郊外四区の古跡巡り

「北京人」人文古跡

瑠璃河北京西周燕都古跡

西周燕都古跡博物館は北京城区から40キロ離れた先の房山区にあり、人類の歴史と文明の発展を記載した、古文化古跡と文物が陳列された歴史文化系博物館である。館内は、西周時期の文物のほか、墓地四つと車馬坑が保存されており、燕都の文化と歴史の変遷が記載されている。

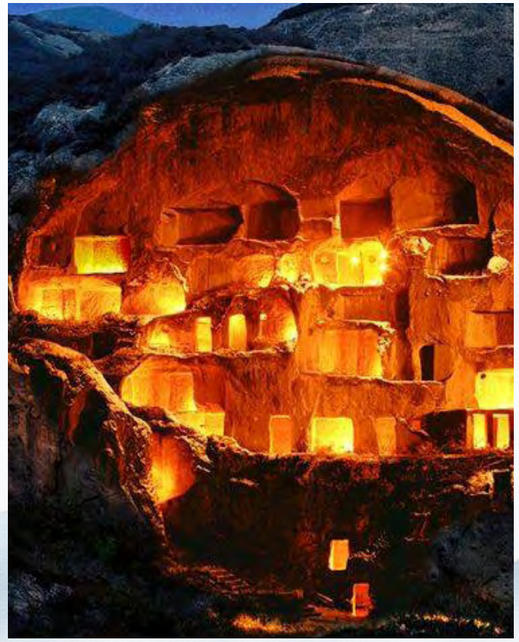
周口店北京人古跡

北京西南房山区のある小さな街で、一つの小さい円型の小山があり、その山からは、過去次々に「北京人」、「新洞人」、「山頂洞人」の古跡が発見され、考古界を驚かせ、人類起源に関する重大な発見だった。20世紀初頭、有名な考古学者裴文中はここで完全に保存されていた人の頭蓋骨の化石を発見し、世界初の驚きな発見となった。

「北京山居」の千年の謎を知る

古崖居

古崖居は北京郊外延慶山区の幽静な谷にあり、古代の人々が岩の壁を掘りあけて作った岩居洞窟であり、中国現在発見された中で規模最大な崖居古跡である。軍都山から上に向かって歩くと、たくさんの家がある地区が見えるが、そこは「鬼衙門」と呼ばれており、誰も住んだことがなく、そこが古崖居だ。



軍都山

北京の北の方面に位置する軍都山は北山とも呼ばれており、居庸関城より危険な場所。伝説では多くの時代の天子がこの山に訪れてきたが故に、軍都山は陽剛な気が漂うことになり、北京の北に君臨し、下の都を守ってきたと言われる。戦乱の時代では、軍都山によって守られた北京は、何度も奇跡的に困難を乗り越えてきた。

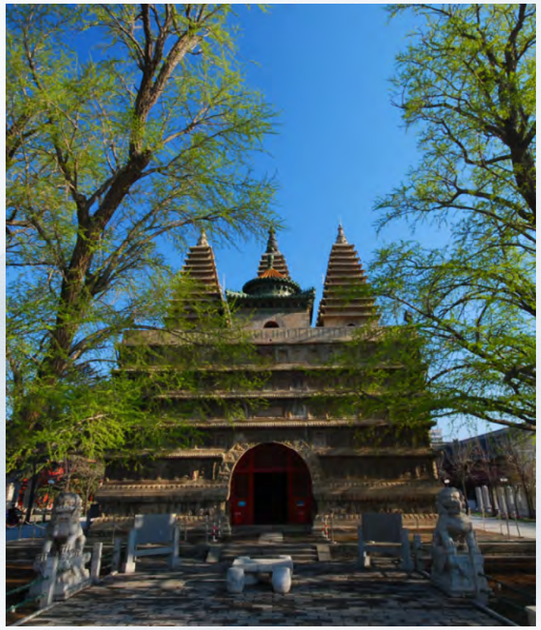
「北京古刹」の仏教文化を知る

卧佛寺

卧佛寺は唐朝で最初に建設され、寺の中は銅の卧佛（横姿勢の釈迦）があり、卧佛寺と名付けられた。卧佛寺の中には、南でしか育てないサラソウジュが二本育てれおり、その故、人々はよく「卧佛寺巡り、サラソウジュ観賞」という。

真覚寺

言い伝えによると、明朝永楽年間、インドの僧侶が来京し明成祖に五つの金の仏像と金剛宝座塔の設計図を奉納し、明成祖は褒美に「金佛建塔」と配下に命じ、真覚寺を建設した。故に、真覚寺は別名五塔寺と呼ばれ、中でも特に金剛宝座塔で有名だ。金剛宝座塔は組積造であり、外部には梵文と仏教の人物が彫刻され、仏教と中国伝統建築の特色が融合させた名作。



雲居寺

雲居寺は北京市房山区に位置しており、総面積は0.07平方キロメートル。隋朝時代末唐朝時代の始めの頃に建てられた。最初は「智泉寺」と呼ばれるが、後に「雲居寺」と改称された。歴代の修築を経て、五つの庭園を有する「六進式」の殿を形成した。雲居寺や石経山蔵経洞、唐遼塔群れは中国仏教文化の宝庫を構成した。

ご連絡をお待ちしております

ご連絡をお待ちしております

もし関連の観光商品やサービスがございましたら、ご連絡をお待ちしております。

北京観光委員会公式メールアドレス：visitbeijing@whlyj.beijing.gov.cn

ウェイボーアカウント
北京市観光発展委員会

WeChatアカウント
北京市観光発展委員会
北京観光

公式ウェブサイト
http://www.visitbeijing.com.cn/

北京之旅
Beijing

ご覧いただきありがとうございます！